

6 3 6 1 - 1 4 4  
平成 1 7 年 1 1 月 2 5 日

各関係機関の長  
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 所長

平成 1 7 年度病害虫発生予報第 8 号について

平成 1 7 年度病害虫発生予報第 8 号を発表したので送付します。

## 平成 1 7 年度病害虫発生予報第 8 号

向こう 1 か月間における農作物の主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。

### 発生予報の概要

作物名	病害虫名	発生量の 平年比	記載ページ
施設果菜類	コナジラミ類	やや多	2
冬春キュウリ	べと病	やや少	2
	うどんこ病	やや少	2
	褐斑病	やや少	3
	灰色かび病	並	3
	アザミウマ類	並	3
冬春ピーマン	斑点病	やや少	3
	うどんこ病	やや多	3
	黒枯病（仮称）	前年より少ない	3
	アザミウマ類	やや少	4
冬春トマト	葉かび病	並	4
	斑点病	並	4
	トマト黄化葉巻病（TYLCV）	前年より多い	4
	ハモグリバエ類	少	5
冬春イチゴ	うどんこ病	やや多	5
	ハダニ類	並	5
	アブラムシ類	やや少	5
カンキツ類	ミカンハダニ	やや少	5
チャ	カンザワハダニ	やや多	6

11月中旬の冬春キュウリは収穫初期、冬春ピーマンは収穫期、冬春トマトは収穫前、冬春イチゴは収穫前、温州みかんはほぼ収穫終了、茶は秋整枝後であった。

### 12月の気象予報

平年に比べて曇りや雨の日が多く、気温・降水量は平年並、日照時間は平年並か少ないと予想されています。（1か月予報 鹿児島地方気象台 11 / 18 発表）

## 発生予報の根拠および防除対策

### 施設果菜類

#### 1 コナジラミ類（シルバーリーフコナジラミ、タバココナジラミ、バイオタイプQ）（やや多）

[ 予報の根拠 ]

- 1) 冬春キュウリでの発生面積率47.4%（平年21.4%）は平年よりやや多、葉当たり虫数9.1頭（平年1.7頭）は平年より多である。
- 2) 冬春トマトでの発生面積率38.5%（平年31.7%）は平年よりやや多、葉当たり虫数1.5頭（平年2.1頭）は平年並である。
- 3) 冬春ピーマンでの発生面積率38.5%（前年36.4%、前々年27.3%）、10花当り寄生虫数1.2頭（前年0.8頭、前々年0.9頭）で、いずれも過去3か年で最も多い。

[ 防除上の注意 ]

- 1) シルバーリーフコナジラミとタバココナジラミ バイオタイプQの形態上の差異は成虫、幼虫ともに確認されておらず、両種の肉眼での区別は困難である。
- 2) タバココナジラミ バイオタイプQに効果のある殺虫剤が少ないことから、薬剤散布後は防除効果に注意を払い、必要に応じて適宜追加防除を行う。
- 3) 有効な薬剤に対する抵抗性の発達を回避する観点からも同一薬剤の連用は極力行わず、より一層ローテーション散布を心がける。また、抵抗性発達の可能性が低いポタニガード乳剤等の微生物農薬や粘着くん液剤等のコナジラミを物理的に窒息死させる薬剤を防除体系に組み込む。
- 4) 施設栽培では防虫ネットを必ず設置するとともに、光反射マルチや近紫外線カットフィルム、黄色粘着板等の物理的防除手段を利用する。

平成17年度病害虫発生予察特殊報第1号（H17.10.6発表）参照

### 冬春キュウリ

#### 1 ベと病（やや少）

[ 予報の根拠 ]

- 1) 11月中旬の発生面積率10.5%（平年31.8%）、発病葉率0.5%（平年4.1%）は平年よりやや少である。
- 2) 向こう1か月の長期予報では、平年に比べて曇や雨の日が多い、気温・降水量は平年並と予想されている。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 湿度が高いときには多発しやすく、多発すると防除が困難となるので、予防散布に重点をおき発生が見られたら初期防除を徹底する。
- 2) 肥料切れや草勢の衰えは発生を助長するので、肥料切れしないように肥培管理に注意する。

#### 2 うどんこ病（やや少）

[ 予報の根拠 ]

- 1) 11月中旬の発生面積率36.8%（平年40.2%）、発病葉率4.1%（平年5.3%）は平年よりやや少である。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 病勢が進展してからでは防除効果が低くなるので、発病を確認したら早めに防除する。
- 2) 耐性菌を生じやすいので、同一系統薬剤の連続散布を避ける。
- 3) 乾燥時に多発するので、ほ場が過乾燥にならないように管理に注意する。

### 3 褐斑病 (やや少)

[ 予報の根拠 ]

- 1) 11月中旬の発生面積率5.3%( 平年15.0%)は平年よりやや少、発病葉率0.5%( 平年3.5%)は平年より少である。
- 2) 向こう1か月の長期予報では、平年に比べて曇や雨の日が多い、気温・降水量は平年並と予想されている。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 多発してからの防除は困難なので、初期防除を徹底する。
- 2) 窒素質肥料の多用は発病を助長し、過繁茂になって通風を妨げるので適正な肥培管理に努める。
- 3) 下葉の老化した発病葉はほ場外に持ち出し処分する。

### 4 灰色かび病 (並)

[ 予報の根拠 ]

- 1) 11月中旬の巡回調査では発生未確認( 平年の発生面積率2.0%)である。
- 2) 向こう1か月の長期予報では、平年に比べて曇や雨の日が多い、気温・降水量は平年並と予想されている。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 曇雨天が続く時は、日中でも加温機を稼働させるなど除湿に努める。
- 2) 発生初期の防除を徹底する。なお、薬剤耐性菌が出現しやすいので、作用性の異なる薬剤のローテーション散布を行う。

### 5 アザミウマ類 (並)

[ 予報の根拠 ]

- 1) 11月中旬の発生面積率5.3%( 平年5.7%)、葉当り虫数0.2頭( 平年0.2頭)は平年並である。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 多発してからは防除効果が低くなるので、低密度の内に防除する。

## 冬春ピーマン

### 1 斑点病 (やや少)

[ 予報の根拠 ]

- 1) 11月中旬の巡回調査では発生未確認( 平年の発生面積率30.3%)である。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 多湿条件では発生した場合の被害も大きくなるので、除湿に努める。
- 2) 病原菌が侵入した後の防除効果は低いので、予防散布を行う。

### 2 うどんこ病 (やや多)

[ 予報の根拠 ]

- 1) 11月中旬の発生面積率38.5%( 平年39.7%)は平年並、発病葉率6.4%( 平年2.4%)は平年より多である。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 乾燥した条件で発生しやすいので、乾燥させすぎないようにする。
- 2) 病勢が進展してからでは防除効果が低いので早期発見に努め、発病を確認したら早めに防除する。

### 3 黒枯病(仮称) (前年より少ない)

[ 予報の根拠 ]

- 1) 11月中旬の発生面積率7.7%( 前年27.3%)、発病葉率0.2%( 前年6.5%)はいずれも前年より少ない発生である。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 昨年発生が確認された新病害で、葉、茎及び果実が犯される。葉では初め褐色小斑点が形成され、次第に拡大して黒褐色輪紋状の病斑となることが多く、斑点病に似ている。茎、果梗及び果実にも黒褐色の斑点を生じることがある。
- 2) ほ場内が多湿条件にならないよう、排水を良好にするとともに敷きわら、マルチなどを行う。被害茎葉、果実は伝染源となるのでほ場外に持ち出し適切に処理する。
- 3) 発生してからでは防除効果が低いので早期発見に努め、発病を確認したら早めに防除する。

#### 4 アザミウマ類 ( やや少 )

[ 予報の根拠 ]

- 1) 11月中旬のミナミキイロアザミウマの発生面積率38.5% ( 平年53.3% ) は平年よりやや少、10花当り寄生虫数0.5頭 ( 平年2.1頭 ) は平年より少である。
- 2) 11月中旬のヒラズハナアザミウマの発生面積率23.1% ( 平年28.8% ) 10花当り寄生虫数0.6頭 ( 平年2.4頭 ) は平年並である。

[ 防除上の注意 ]

- 1) ミナミキイロアザミウマは10花当り寄生虫数が1頭から被害果が出始める。また多発してからでは防除効果が低くなるので、低密度の内に防除を徹底する。

### 冬春トマト

#### 1 葉かび病 ( 並 )

[ 予報の根拠 ]

- 1) 11月中旬の巡回調査では発生未確認 ( 平年の発生面積率2.8% ) である。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 多湿条件で発生しやすいので、ハウスの換気を良くする。
- 2) 発病初期の防除を徹底する。

#### 2 斑点病 ( 並 )

[ 予報の根拠 ]

- 1) 11月中旬の巡回調査では発生未確認 ( 平年の発生面積率10.6% ) である。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 多湿条件で発生しやすいので、ハウスの換気を良くする。
- 2) 発病初期の防除を徹底する。

#### 3 トマト黄化葉巻病 ( TYLCV ) ( 前年より多い )

[ 予報の根拠 ]

- 1) 11月中旬の発生面積率46.2% ( 前年11.1% ) は前年より多い発生である。
- 2) 病原ウイルスを媒介するコナジラミ類 ( シルバーリーフコナジラミ及びタバココナジラミバイオタイプQ ) の発生面積率38.5% ( 平年31.7% ) は平年よりやや多、葉当り虫数1.5頭 ( 平年2.1頭 ) は平年並である。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 黄色粘着トラップ等を設置し、コナジラミ類の早期発見に努めるとともに、栽培期間中を通して防除を徹底し、本虫の密度を抑制する。
- 2) ハウスには必ず開口部に0.8mm以下の防虫ネットを設置する。できれば、0.4mm以下の目合いが望ましい。
- 3) 施設内外の雑草はコナジラミ類の寄主となるので除草を徹底する。また、施設内では栽培目的以外の不要な作物や観葉植物等は栽培しない。

- 4) 発病株は伝染源になるので、根ごと抜き去り、土中に埋めるかビニル袋に入れて枯れるまで密閉する。ウイルスは植物全体に存在しているので発病部位を除去しても伝染源になるため、必ず株全体を除去する。

#### 4 ハモグリバエ類（少）

[ 予報の根拠 ]

- 1) 11月中旬の巡回調査では発生未確認（平年の発生面積率43.4%）である。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 多発してからの防除効果は低いので初期防除に努める。

### 冬春イチゴ

#### 1 うどんこ病（やや多）

[ 予報の根拠 ]

- 1) 11月中旬の発生面積率33.3%（平年23.1%）、発病葉率9.0%（平年4.0%）はいずれも平年よりやや多である。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 葉裏に発生しやすいので早期発見に努め、初期防除を徹底する。  
2) 激しく発病すると防除効果が低くなるので、予防に重点をおき、発病後は散布間隔を短くするなど発病初期の防除を徹底する。  
3) 発病果など被害部は伝染源になるので早めに取り除きほ場内に放置しない。

#### 2 ハダニ類（並）

[ 予報の根拠 ]

- 1) 11月中旬の巡回調査では発生面積率25.0%（平年29.6%）、寄生株率5.7%（平年7.7%）はいずれも平年並みである。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 収穫期に寄生数が増加してからの防除は困難なので、低密度時から防除を徹底する。  
2) 株整理後の葉数が少なくなった時期に薬剤散布を行うと防除効果が高くなる。茎葉繁茂時には散布圧を強めて、葉裏に良くかかるように散布する。  
3) 薬剤感受性の低下を避けるため、同一薬剤・系統の薬剤の連用を避ける。

#### 3 アブラムシ類（やや少）

[ 予報の根拠 ]

- 1) 11月中旬の発生面積率16.7%（平年25.1%）は平年並み、寄生株率1.2%（平年3.7%）は平年よりやや少である。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 開花期に薬剤を使用する場合は十分注意し、ミツバチに影響の少ない薬剤を寄生株とその周辺に部分散布する。  
2) 株整理後の葉数が少なくなった時期に薬剤散布を行うと防除効果が高くなる。茎葉繁茂時には散布圧を強めて、葉裏に良くかかるように散布する。

### カンキツ類

#### 1 ミカンハダニ（やや少）

[ 予報の根拠 ]

- 1) 11月中旬の発生面積率45.0%（平年60.5%）、寄生葉率10.6%（平年20.8%）はいずれも平年よりやや少である。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 冬季のマシン油乳剤の防除効果は高いので実施する。
- 2) 薬剤感受性の低下を避けるため、同一薬剤・系統の薬剤の連用を避ける。

チャ

## 1 カンザワハダニ ( やや多 )

[ 予報の根拠 ]

- 1) 11月中旬の発生面積率61.5% ( 平年43.3% ) は平年よりやや多、寄生葉率2.8% ( 平年3.0% ) は平年並みである。

[ 防除上の注意 ]

- 1) 薬剤感受性の低下を避けるため、同一薬剤・系統の薬剤の連用を避ける。

### その他

- 1 農薬適用の有無などについては次のホームページで確認する。  
 日本植物防疫協会ホームページ <http://jppn.ne.jp>  
 農林水産省ホームページ <http://www.maff.go.jp/nouyaku/>  
 農薬検査所ホームページ <http://www.acis.go.jp/>
- 2 農薬の使用に当たっては、農薬使用基準の遵守並びに危被害の発生防止に努める。特に水質汚濁性農薬ベンゾエピン剤 ( 商品名、マリックス乳剤、粒剤等 ) は使用しないこと。
- 3 発生量 ( 程度 ) の区分
 

多	い	( 高	い )	やや多いの外側10%の度数の入る幅
やや多い		( やや	高い )	平年並の外側20%の度数の入る幅
平年並				平年値を中心として40%の度数の入る幅
やや少ない		( やや	低い )	平年並の外側20%の度数の入る幅
少ない		( 低	い )	やや少ないの外側10%の度数の入る幅

( 平年値は過去10年間の平均 )
- 4 予察情報の種類
 

病害虫防除・肥料検査センターから発表する情報は次の5つです。

  - 1) 予報・・・向こう1か月の発生状況を予測し、毎月25日前後に発表する。
  - 2) 注意報・・・主要な病害虫の多発生が予想され、かつ早めに防除が必要な場合に発表する。
  - 3) 警報・・・主要な病害虫の大発生が予想され、かつ緊急に防除が必要な場合に発表する。
  - 4) 特殊報・・・県内で初めて発生を認めた病害虫がある時や、病害虫の発生様相が特異な時に発表する。
  - 5) 防除情報・・・注意をうながす必要がある病害虫の発生状況や、各種の防除技術指導情報について随時発表する。

**お知らせ** (<http://www.jppn.ne.jp/miyazaki/>)

病害虫防除・肥料検査センターでは、ホームページで情報を提供しています。予察情報の根拠となる地域別調査データ、防除対策等を掲載しています。ぜひご利用ください。

**【 文書取扱 】**

病害虫防除・肥料検査センター 櫛間  
 TEL:0985-73-6670 FAX:0985-73-7499  
 E-mail: byogaichu-hiryo  
 @pref.miyazaki.lg.jp